

土岐・運・来

と・き めぐり きてる

会報「土岐・運・来」第26号
発行 自然・馬・人の会
発行日 2004年6月13日(日)
只今の会員数 正会員 42 家族
協力会員 16 家族
賛助会員 0 家族

~ああそうだ! 
人參と一緒に切るところから
楽しい乗馬会よね・・・

小田原市・『渡邊桃子の母』さん

いつもお世話になっております。毎回馬に乗る日曜日をとっても楽しみにしています。わりと朝の早い我が家ですが、乗馬会の日は身支度もいつもよりだんぜんスピードアップします。弟とテレビ(仮面ライダーとか)をお付き合いで一緒に観て、朝食をすませて、乗馬の時間まで城址公園で過ごすために早めに出かけます。

いつもは、"馬さんにあげる人參を用意してね"と桃子に頼まれるのですが、実は、この原稿の依頼を受けた時に、人參も一緒に用意していますか?と聞かれて、ああそうだ、一緒に用意するところから楽しい乗馬会よね。



と何事にもポーッとしている母はやつと(!!!)気付き、今回より一緒に人參の用意をしました。とても満足そうな娘の笑顔に、またひとつステキな時間が増えたと感謝しています。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。そして、ちょっと臆病な弟の豪(ごう)も、いつか参加させていただきたいと思っています。



馬の会とびっくす

◆2/29第2競馬上弓くらべ大会開催協力
(報告・山崎朋子)

当日は、朝から雨。降りやまぬ雨を見上げながら、私たち女性スタッフは、競技者の着付場での管理を担当。1枚ずつ衣装を身につけるごとに、競技者の気持ちが高揚していくのを、真近で感じる。

競技開始時には雨もあがり、弓をふりしぶる毎に、会場の大歓声。その中、「馬の会」もPRテントを出し、大会資料に当会会報等も加え、声を出しての積極的アピール。



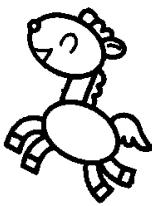
2004年2・3・4月

「小田原梅まつり」の最終日を飾るこの大会も2回目。街全体のとりくみとしての更なる発展が見えてきた。



◆3/6 ひだまりの会の乗馬会に協力
(報告・桜井広利)

障害者の遊び場づくりなどにとりくむ『ひだまりの会』が、平塚養護学校において乗馬会を開催。当会のスタッフが乗馬介助で協力。予想以上の参加者に、1日中てんてこ舞い。「おかげで楽しい会でした」と『ひだまりの会』の方々。



(4月4日青空講座から)

馬と見つけた 宝もの

● 8年目の自己紹介



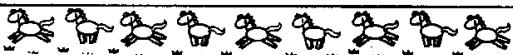
障害のある人もない人も、赤ちゃんからお年寄りまで、誰もが馬に乗れる『自然・馬・人の会』。どんな会なんだろう。何が得られるんだろう…。

8年目を迎えた今年4月、「馬と見つけた宝もの」と題した講座を行う中、みんなから「馬の会」への思いを出してもらった。

いかにも「これが私の見つけた宝もの」という話もあれば、そうじゃない話もある。でもそれを全部ひっくるめて、今の『馬の会』。どの思いもやっぱりみんな、「馬の会ならではの宝もの」に見えきませんか？

(編集部:坂梨 勝一)

《馬の会ってどんな会なんだろう》



《馬の会へのみんなの思い》

(注)これらのコメントは、講座の中で、2人1組の『書き書きゲーム』を行って書いた原文を元に、後日抜粋したものです。

鈴木 孝史(高校生)

ボランティアの人たちや子どもたちとかかわるようになって、話をするのがうまくなつた。馬の知識をいっぱい吸収して、ベテランチームに入りたい。
(書きとり:山崎 梨絵)



山崎 梨絵(10代専門学校生)

将来、社会福祉士になるため、がんばっています。人の気持ちがわかる人間になりたいです。
(書きとり:鈴木 孝史)

「誰でも」にしているから、この会のよさができるのかな。

自然・馬・人の会・田所清人さんの談話
(一部の要旨)

私は、障害者を対象にした、よその乗馬会にもお手伝いに行っているんだけど、この会の違いっていうのは、「障害のある人もない人も誰でも乗せる」っていうところで出てくるのかと思う。

「誰でも」ってやり方をしている中で、いろんな人のつながりが出てくる。「乗せる人」「乗せてもらう人」という、ブツッと切れた関係になりにくい。

障害者だけの乗馬にこだわると、「効果があった」とか「なかった」とか、「あの人は教え方が下手」だとか、内側に向かっちゃう。「誰でも」ってやり方をしていると、いろんな人が出たり入ったり、来れる時だけ来る人もいるってところで、この会の良さが出てきているんだと思う。

**齊藤 洋介(20代・会社員)**

今年で2年。子どもたちへの接し方や馬の扱い方、そしてグループのリーダーを任されることで、自分が責任を持って、何かをやることの心地よさを知ることができた。

(ききとり:阿久津真理子)

阿久津 真理子(40代・教員)

はじめは娘のために参加。学校が忙しくなり、今では私だけが来ています。でも、娘がきていた時には、安心して娘から目を離していました。

(ききとり:齊藤洋介)

都ちゃん・都司掛仁史(20代・フリーター)

入会後5年。入った頃よりも人見知りが減り、子どもたちと接する機会が増えたことで、子どもの見方も変わりました。

(ききとり:小木美智子)

**ウッキー・神谷友美(20代・保育士)**

人と人のつながりが大切だと思っています。言葉で伝わりにくいことを、ゲームなどで伝えてゆきたいと思う。

(ききとり:やぎさん 田所清人)

やぎさん・田所清人(50代・公務員)

子どもの頃の最初の友達は動物。だから動物と一緒にいられるのは、楽しい。人とのつながりは、お金や仕事がからんでないからいい。

(ききとり:ウッキー 神谷友美)

きっちゃん・橋川京子(20代・保育士)

いちばんの楽しみは、子どもの成長が見られること。例えば、最初は車椅子で来ていた子が、何年かして、お父さんと手をつないでこれるようになったとき。とってもうれしかった。

(ききとり:中村悦子)

中村 悅子(50代・教員・当会副会長)

会を立ち上げた頃、事務的なことは私ひとりでやっていましたが、「馬」が接着剤代わりになり、人が人を呼んで、運営を手伝ってくれる人も増えました。この会に関わるすべての人に命の栄養をもらっています。

(ききとり:きっちゃん 橋川京子)

闇野 政一(40代・自営業)

もっと一般の人が楽に参加できるシステムであってほしい。最近の傾向として、気になるのは、機能回復、乗馬技術のレベルアップを要求しすぎる面があること。

(ききとり:山崎朋子)

山崎 朋子(50代・介護職)

各人の役割分担は、適材適所かと。でも、もっと皆さんとお話しする時間が欲しい。

(ききとり:闇野政一)

福田 美子(30代・公務員)

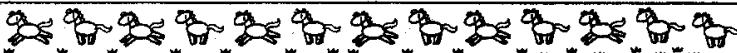
身体の都合で、今まで受付をさせてもらっていましたが、今年は他のボランティアや乗馬もやってみたい。この会の若い人たちは、福祉に対する考え方がすばらしいですね。

(ききとり:大竹美智子)

**大竹 美智子(40代・主婦)**

私が乗りたくて始めました。5~6年前頃は、まだ、大人で乗る方がいなくて、ボランティアで様子を伺ってから申し込んだのです。北條五代祭りの騎乗者として声をかけてもらって、ほんとうにうれしかったのですが。。。

(ききとり:福田美子)



《馬と見つけた 宝もの》

花形 富雄(50代・会社員)

きっかけは知人の病気に、乗馬が効果があったということ。いやしの効果や乗ることの楽しさを、多くの人に伝えたい。(ききとり:片山裕子)

※ つぎのお2人は、この講座から初参加。実際の乗馬会はまだこれからという段階。どんな動機での参加かな。

桜井 広利(50代・自営業・当会会長)

会発足のきっかけは、阪神大震災で感じた人と人とのコミュニケーションの大切さ。はじめのうち、ボランティア集めが大変でしたが、それぞれができる事をし、協力することで、必要な仕事が片付き、発展した。そして、僕の思いが形になってきていることがうれしい。

(ききとり:ゆかパパ)

小木 美智子(20代・学生)

動物は好きですが、馬とちゃんと接したことはありません。(ききとり:櫻司樹仁史)

片山 裕子(20代・学生)

ディズニーのアニメで感じた優しい気持ち、修学旅行の北海道で乗った時の快い気持ち。そんなものをまた感じたくて参加しました。

(ききとり:花形富雄)

**みなさん自身は、気づいて
ないでしようけれど。**

会員・ゆかちゃん(7)のお父さん
ゆかパパさんの談話(要旨)



この会って、スタッフの皆さんご自身では気づいていないかと思うのですが、我々、ハンディキャップを持つ子の親にとって、とてもハイレベルな会だと思っています。娘を他の会で乗せることもあるんですが、そこで、乗ってきた時と、この会で乗った時とでは違うんです。

娘はもうすぐ7才。コミュニケーションがとにくいという障害があるわけですが、ただし正確に自分の好き嫌いを判断し、察知します。自分に急激の加わる状況だと、しきりに防衛線を張るんですね。でもここでは防衛線がいらない!

「馬がいい」というのは、一般的に本にも書かれ、多くの臨床報告がなされています。でも、この会には、「プラスアルファ」があるんです。参加されている方の影響力です。

家内がよく言うのは、家内は毎日子どもに這いかけられていますが、この会では、馬に乗っていないときでも、サポートの子ども達がいて、娘をみてくれている。それで親としても、他

の同じ悩みを持つ方たちとお話しできる。新しいアイディアも浮かびます。

そういう皆さんと積極的に話をするうちに、自分もリフレッシュするし、いろいろなことを得ることができます。

また、僕は子どもが好きで、よく近所の子たちを集めでは、遊びに出かけます。そこで、この会にも、娘ざらえで連れて来ちゃう。その子たちには、ちゃんとお友だちもいて、行く場所もあるんですが、ただし、違う年代の人とつきあう機会がないんです。今の子どもは、そういうコミュニケーションの機会が与えられていないから、個人主義がちょっと強い面があると思うのですが、それがこの会に来ると、一気にはずれちゃう。相手は人生の先輩ですからね。それなりの対応をしなきゃと…。こういう中で育つ子は、将来社会でもまれても大丈夫かなって…。子どもたちもあれでボランティアの方と、ちゃんと距離感を測っているんですよ。

《会員紹介コーナー》

ミルキーとハイジの
『会員さんに聞きました!』

『とてもゆるやかに、
かかわれること・・・。
それが長続きの理由かな』

秦野市・石川柚葉ちゃん、朝日くんのお母さん

柚葉ちゃんはこの会が始まったころからの会員さん。7年間ずっと通い続けています。肢体不自由のため、最初の頃は、馬の周りに何人もの人が支えて乗っていましたが、今では手放しでにこにこ乗っちゃいます。

弟の朝日くんの乗馬デビューで、早くもお姉ちゃんぶりを見せる柚葉ちゃん。そんな柚葉ちゃんのことをお母さんにきいてみました。



—— 馬を始める前には、他に何か習い事はしていましたか?

(母) 何もやっていませんでした。行く勇気がなかったので・・・。

—— え? 勇気だなんて、そんなあ。

(母) こういう子がやることって、室内でやることばかりなんです。でも、その室内って言う空間がイヤで泣いちゃう。何をすればいいのか分からなくて不安になると、室内じゃ逃げ場がないっていうか・・・。

でも、動物には興味があって、動物園が大好きでした。「あー、いるいる」って・・・。

—— とっても興奮しちゃうんだ。

(母) それで、ここなら馬がいるし、外だしと思って。それが一番のきっかけですね。

—— 人に接するのも大好きだよね。話しかけると、ちゃんと相手の言うことを受け入れてくれる。とっても優しい子だと思う。

(母) 慣れてくると、その人を見ただけで近寄っていって、「ネエネエ」っていう感じになる。ここにはいろいろな年代の人人がいて、みんな声をかけてくれる。小さい子から年配の方まで。特におばあちゃんは大好き。



—— 個人カードをずっと持見させていただきましたが、お母さんの記録には、柚葉ちゃんがゆっくり成長している姿をあせらすに事細かに見守っている姿が伝わってきます。

(母) この会に入った頃はもう「ゆっくりでいいや」って気になっていたんです。ここは指導のステップもとてもゆるやかで、しっかりやりなさいって感じがない。サラリとかかわれるのがとてもいいんです。

—— でも確実に成長してるよな・・・。(母) 慣れるまでは時間がかかるけど、一回できてしまうと、ずっとできる子だと思うから。そこに行くまでにあわてずに、ってね。

—— そういえば、柚葉ちゃん、朝日くんを前にお姉ちゃんぶりを見せたとか。

(母) 下の子が初めて乗った日、怖くて大泣きしたんです。そうしたら、「私は平気よ」と感じで、馬の上から余裕の顔・・・。(笑)

4月から下の子も正式に登録しました。今まででは柚葉のためというが強かったけど、これからは家族みんなの場所になります。



(3月7日 取材:坂梨)



2004年北條五代祭り「自然・馬・人の会」「女武者騎馬隊」

みんなの力で年に一度の大切な日が迎えられました。

「自然・馬・人の会」運営委員 坂梨 勝一



スタッフ総勢27名と5頭。馬も豪張、人も豪張。まずは事故もなく、無事に終了したことをご報告します。そして何より、今年は当日スタッフだけではなく、この会に関わるたくさんの方々に支えられて、この日が迎えられましたことを感謝いたします。

スタッフが個人的経済負担を気にすることなく、何時でも練習できるように取りはからって下さっ

た、サドルバックの高橋社長。

資金のご支援をしていただき、たくさんの方々、支援の呼びかけチラシに、楽しい絵を描いていただいた藤沢の石河さん。

当日、馬の調子を上手に整えてくれた、高橋君、井上君、小泉君たち。盛前の応援メールで、勇気づけてくれた加藤麗子さんも・・・。

年に一度の大切な一日は、こうしたみんなの力で、できあがったと思っています。準備を通して、悩んだことも、苦しんだことも今後の日々の乗馬会への大切な経験となって生きてゆく、そう思っています。

定期乗馬会の予定

7/11(日)、9/12(日)(予定)



後援：小田原市

助成：ともしひ基金実業事業



「自然・馬・人の会」 会長 桜井 広利
〒250-0045 小田原市城山1-3-22
TEL 0465-32-1308 FAX 0465-32-1332
E-mail na-nhp@wb3.so-net.ne.jp(中村)
ホームページ http://dhi.cool.ne.jp/uma/